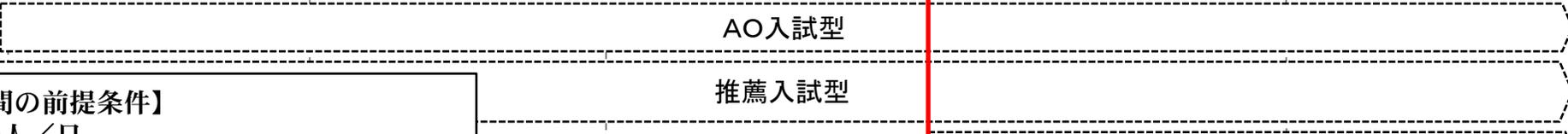


「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の記述式の実施方法・時期のイメージ(たたき台)

11月	12月	1月	2月	3月
-----	-----	----	----	----



【採点期間の前提条件】
 ◆実働800人/日
 ◆受験者数は最大53万人を想定
 ◆各正答条件を2名で採点
 ◆採点作業はクラスタリングを使用
 ※採点業務は民間の活用を想定しており、不確定要素もあるため、採点期間は変動する可能性。

個別学力検査(実施:2月1日~)

案の1(現行日程案)

<イメージ>
 国語：短文記述式1問(40字程度)
 数学：数式などを記述させる問題1問

1/16,17
(追・再試1/23,24)

記述式

採点期間
約15日

2/2~
大学への成績提供

・国公立のAO・推薦
・私立の二次試験合格発表

※現行のセンター試験利用の国公立のAO・推薦、私立の二次試験の合格発表は2月上中旬に集中。

9~10月頃
文化祭
体育祭

12月上旬
高校定期考査
12月上旬(追・再試12月)

記述式

採点期間(注) 約40日程度
* 年末・年始の期間を除く

国公立前期・後期
出願受付
(1月25日~2月3日)

国公立第一段階選抜結果発表(2月9日)

国公立前期試験(2月25日~)

高校卒業式(3月上旬)

国公立前期合格発表(3月6日~3月10日)

国公立後期試験(3月12日~)

国公立後期合格発表(3月20日~3月24日)

案の2(12月実施案)

<イメージ>
 国語：短文記述式最大4問(40~80字程度)
 数学：数式などを記述させる問題最大6問

* 12月より前に実施する場合は、更に問題数・文字数を多くすることが可能。
 (注) 採点期間には、採点の事前・事後の、採点基準の確定、研修、成績提供準備等に係る期間を含む。

「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の実施方法・時期（メリット・課題）

パターン	記述式の問題数・文字数	メリット	課題	コスト
【案1】現行日程案 ※現行のセンター試験と同様の日程で、マークシート式と記述式を実施	○国語：短文記述式1問 （40字程度） ○数学：数式などを記述させる問題1問	■高校の教育活動の日程に影響を及ぼすことなく実施可能。	■記述式の問題数・文字数が限定され記述式を導入する意義が薄れる。 ■この日程で、入学者選抜としての厳正な採点ができるか。（採点基準の精緻化・研修等を含む） ■大学への成績提供（1月末～2月初旬）に向けて、不測の事態に対応する日程が確保できない。（特に国公立のAO・推薦型入試、私立の二次試験への影響）	約■■■■程度 （※1, 2）
【案2】12月実施案 ※マークシート式と記述式の実施を現行のセンター試験より1ヶ月前倒して実施	○国語：短文記述式最大4問 （40～80字程度） ○数学：数式などを記述させる問題最大6問	■一定の記述式の問題数・文字数を確保することができる。 ■不測の事態に対応する日程を確保することも可能。	■高校の教育活動に影響が及ぶ。（定期考査時期の見直し、授業の過密化など）	約■■■■程度 （※1, 2）

（※1）記述式とマークシート式を同一日程で実施する場合

（※2）採点体制、採点基準、クラスタリング関係、採点会場、作問、印刷、保管・運搬に係る経費を含む。その他、システム関係経費（初期費用、維持費等）等が必要。

「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」記述式の採点期間とコストに係る試算

【試算】(条件設定や採点の技術的工夫等により変動する可能性を含むもの)

問題形式	出題の内容		各設問ごとの採点にかかる日数(試算)
短文記述式	例: 数式などを記述させる問題		1日程度
	国語: <例1> 問1※1	40字×4条件	3日程度
	国語: <例2>	40字×4条件	3日程度
	国語: <例1> 問2	80字×6条件	4日程度
より文字数の多い記述式	国語:	200字×8条件	6日程度
	国語: <例3>	300字×10条件	7日程度

A
A'
B
B'
P
P'

高大接続システム改革会議
最終報告における記述式に関する記載

○平成32～35年度 短文記述式の問題を導入

○平成36年度～ より文字数の多い記述式の問題を導入

各パターンごとの採点にかかる日数(試算)			採点の事前・事後にかかる日数(試算)※2	採点等にかかるコスト(試算)※3	その他、試験会場運営にかかるコスト(別日程の場合の試算)※4
パターンⅠ	数式などを記述させる問題3問 +短文記述式(A+B)	= 10日程度	+10～15日	約■■■■程度	約■■■■程度
パターンⅡ	短文記述式(A+A'+B)	= 10日程度	+10～15日	約■■■■程度	
パターンⅢ	短文記述式(A+A'+B)×2	= 20日程度	+15～20日	約■■■■程度	
パターンⅣ	短文記述式(A+A'+B+B') +より文字数の多い記述式(P+P')	= 30日程度	+20～30日	約■■■■程度	

【試算に当たっての前提】 ◆実働800人/日の採点体制を確保した場合を想定(難易度や科目の特性、今後の更なる検証結果等を踏まえ、数値は変動する)。
◆採点体制については、監督者:大学教員、グループリーダー・採点者:民間事業者を想定
◆受験者数は最大53万人を想定。各正答条件を2名で採点。

※1 高大接続システム改革会議(第9回)で示した問題イメージ例における設問を指す。以下、<例2><例3>についても同じ。
 ※2 テスト実施後、採点の事前・事後に、採点基準の確定、研修、成績提供準備等に係る期間が必要。
 ※3 採点等にかかるコストには、採点体制、採点基準、クラスティング関係、採点会場、作問、印刷、保管・運搬に係る経費を含む。その他、システム関係経費(初期費用、維持費等)等が必要。
 ※4 試験会場運営にかかるコストには、会場借料・試験監督者・出願受付等を含む。
 ※3,4 試算に当たっては、不確定要素もあるため、あくまで目安となるコストとして算出。

「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」で考えられる採点方法・体制の例

質をコントロールするための方策

センターが民間を活用し採点する場合の例

① 詳細な採点マニュアルの作成

- ・ 事前の採点マニュアル作成準備
- ・ 実答案を踏まえた採点マニュアルの更新

② 採点者の選抜と教育

- ・ 採点者登録試験により選抜
- ・ 採点方法に関する研修

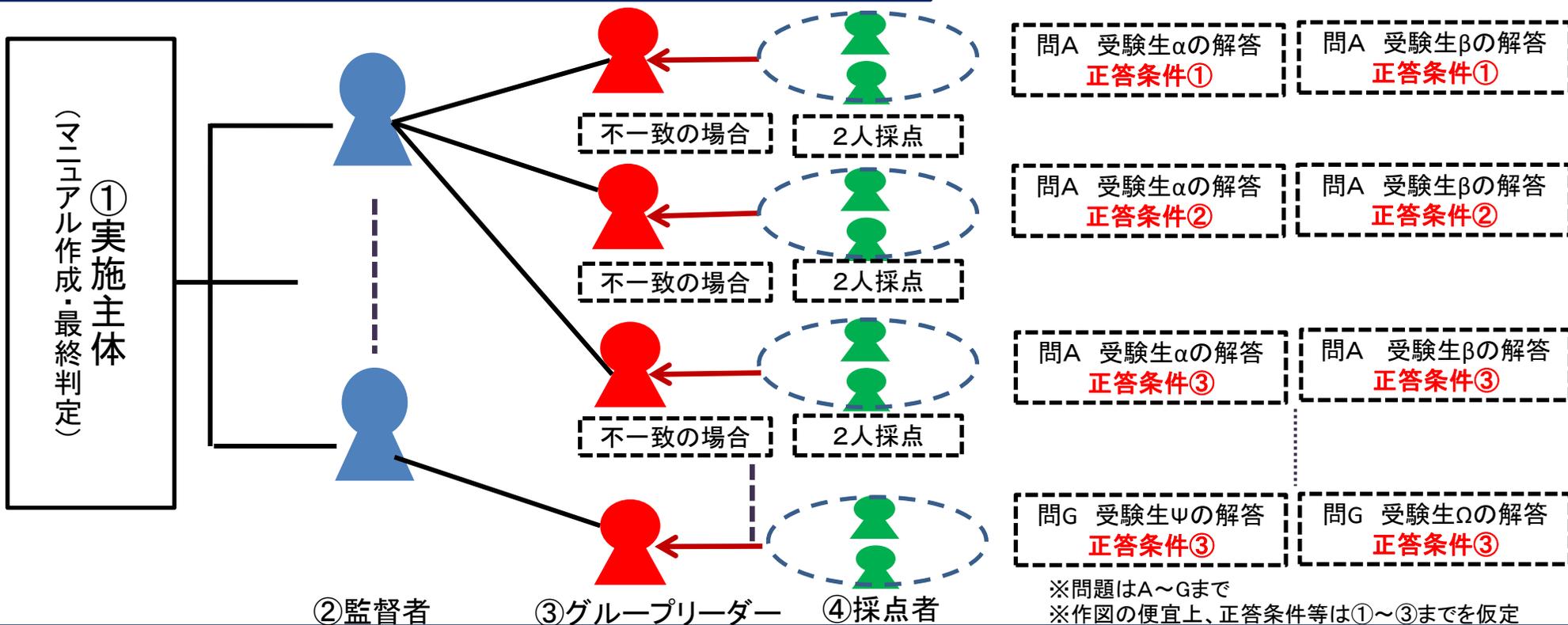
③ セキュリティの確保

- ・ 採点会場への入室を自動改札等により制限
- ・ 情報端末、紙等の持ち込み・持ち出しを管理・制限

④ 採点の組織化

- ・ 採点は4層構造（①マニュアル作成・最終判定、②監督者、③採点グループリーダー、④採点者）として実施。
- ・ 数十人の採点者がチームに分かれて採点。同一問題につき採点者2名が採点し、不一致の問題についてはグループリーダーが採点し、更に疑義が生じた場合には監督者による採点を行う。
- ・ 監督者は大学教員が担い、採点の質を担保。

大学入学希望者学力評価テスト(仮称) 採点体制<イメージ> (案)



案の1（現行日程案）

※英語については、資料1の【案3】を想定

		※認定基準において、適切な実施時期を設定するか要検討				12月	1月	2月	3月	実施主体
資格検定試験 (認定※1)	英語	資格検定試験 4技能(認定)	資格検定試験 4技能(認定)	資格検定試験 4技能(認定)	大学では、<民間の4技能> or <民間のS・W+センターのR・L>を選択し活用※2					民間 資格検定 団体
マーク式	英語									センター
	英語 以外									
記述式	国語 数学									

1月: マーク式 英語 (R・L)
英語 以外
記述式 (国・数)

2月: 一斉実施 1/16,17 (追・再試1/23,24)

案の2（12月実施案）

※英語については、資料1の【案3】を想定

		※認定基準において、適切な実施時期を設定するか要検討				12月	1月	2月	3月	実施主体
資格検定試験 (認定※1)	英語	資格検定試験 4技能(認定)	資格検定試験 4技能(認定)	資格検定試験 4技能(認定)	大学では、<民間の4技能> or <民間のS・W+センターのR・L>を選択し活用※2					民間 資格検定 団体
マーク式	英語									センター
	英語 以外									
記述式	国語 数学									

12月: マーク式 英語 (R・L)
英語 以外
記述式 (国・数)

1月: 一斉実施 12月上旬 (追・再試12月)

※1 認定基準に応じて、①既存の検定試験のカスタマイズ、②新規の検定試験の導入もありうる。

※2 大学においては、いずれか（又はその組み合わせ）の活用方式を選択し公表（選抜実施要項に明記）

案の3(記述式別日程案)

※英語については、資料1の【案2】を想定

		～12月	1月	2月	3月	実施主体
民間委託	英語	<p>大学では、＜民間に委託したS・W＞+＜センターのR・L＞を併せて活用</p> <p>民間委託 (S・W)</p>			<p>一斉実施 1/16,17 (追・再試1/23,24)</p>	センター
マーク式	英語	<p>一斉実施</p> <p>※委託仕様書において、適切な実施時期を設定する。</p>	<p>マーク式</p> <p>英語 (R・L)</p> <p>英語 以外</p>			
	英語 以外					
記述式	国語 数学	<p>記述式 (国・数)</p>				

案	メリット	課題
<p>【案1】現行日程案</p> <p>※現行のセンター試験と同様の日程で、マークシート式と記述式を実施</p> <p>※英語は、各民間事業者が設定する個別の日程で実施</p>	<p>■高校の教育活動の日程に影響を及ぼすことなく実施可能。</p>	<p>■記述式の問題数・文字数が限定され、記述式を導入する意義が薄れる。</p> <p>■この日程で、入学者選抜としての厳正な採点ができるか。(採点基準の精緻化・研修等を含む)</p> <p>■大学への成績提供(1月末～2月初旬)に向けて、不測の事態に対応する日程が確保できない。(特に国公立のAO・推薦型入試、私立の二次試験への影響)</p>
<p>【案2】12月実施案</p> <p>※現行のセンター試験より1ヶ月前倒してマークシート式と記述式を実施</p> <p>※英語は、各民間事業者が設定する個別の日程で実施</p>	<p>■一定の記述式の問題数・文字数を確保することができる。</p> <p>■不測の事態に対応する日程を確保することも可能。</p>	<p>■高校の教育活動に影響が及ぶ。(定期考査時期の見直し、授業の過密化など)</p>
<p>【案3】記述式別日程案</p> <p>※現行のセンター試験と同様の日程で、マークシート式を実施</p> <p>※記述式について、民間委託による英語2技能(S、W)試験と併せて実施</p>	<p>■一定の記述式の問題数・文字数を確保することができる。</p> <p>■不測の事態に対応する日程を確保することも可能。</p>	<p>■受験生、大学関係者の負担が増大。</p> <p>■高校の教育活動に影響が及ぶ。(定期考査時期の見直し、授業の過密化など)</p> <p>■英語+記述式を同一民間事業者が実施することは困難。</p>